

(別記様式2)

令和4年度全国農業大学校等意見発表要旨

おのでら たくま

農業大学校名 岩手県立農業大学校 学科名 農産園芸学科 学年 2年 氏名 小野寺 拓真

1 課 題

りんご栽培5代目の私がすること

2 意見・提言

私は農業大学校卒業後、りんご栽培5代目として就農することを考えている。3代目の祖父は宮城県出身で2.6haのりんご経営をしていたが、父の就農をきっかけに「3K農業」ではない、新しい農業経営を目指すことを決めたようだ。

祖父たちの目指した新しい農業のポイントは3つ。1つ目は大規模りんごの法人経営化。会社組織として労働時間や休日をしっかりと決めることで「3K農業」から脱却すること。そのため、岩手県に農地15haを買い求めた。2つ目は自分で生産したものを自分で売ること。「味」を重視し、あそこのりんごは美味しい」とわかってもらえる努力をすること。このことで、今では全国各地に数多くの顧客ができています。3つ目は、経営者がしっかりとした経営感覚を持つこと。大きな金額を動かす大規模経営体にとってルーズな運営は命取りとなる。

では、りんご栽培5代目の私は何をするか。

1つ目は、省力化・軽労化技術の積極的な導入だ。私の家は、全国でも有数の大規模りんご経営体のため、作業の大部分を雇用に頼らざるを得ない。近年雇用の確保がかなり難しく、従業員の高齢化も課題となっており、作業性も低下傾向にある。この課題を解決して、現在の品質を維持しながら、さらに規模の拡大を目指すため、多くの小さな技術の検討・検索を行い、それを積み重ねることにより、大きな成果につなげていきたいと考えている。

2つ目は、私のりんご経営や作業の楽しさ、そして厳しさ、私のりんごの美味しさ、美しさなどをSNSを通じて、全国の子供たちや消費者、そして農業をしている多くの生産者達に発信することだ。国内の農業人口は60年以上減り続けており、課題であることが叫ばれ続けているが、私はどんどん農業を止めてもらって良いと思っている。精鋭たちがこれからの農業をすればよいのだ。私もこの中の一人となる。それとともに、私の農業を発信することで、1人でも精鋭農業者仲間を増やしてゆく。更には、子供たちや消費者から「農業って楽しそう、やってみたい」と思わせる。

3つ目は新たな品目導入の検討だ。近年、様々な品種が育成されていることと、地球温暖化の影響で、今まで岩手県では経済栽培できない、とされてきた樹種の栽培も可能となってきているようだ。安定経営を続けるために、りんご栽培は自家の経営の柱として、無くすことはできないが、りんごの前に収穫できる桃や梨の栽培、降雨時でも作業できるように雨よけハウスでのぶどう栽培など、年間の作業時間を出来るだけ平準化するための新たな果樹品目の導入の検討をする。